

『えっ…何で…何で…』
「そっ…それはこっちのセリフだよ…
友達と旅行じゃなかったの？
それに…このDVD何？
むっ胸もそんなに出して…」

『えっとな…これは違うの…
なんていうか友達と…
趣味でやって…』

「あみちゃん？なんかトラブル？
大丈夫？お客さんゴメンね
このコ今迷惑してんだよね
後ろのお客さんもつかえてるし
購入しないなら他いつて貰って
いいかな？」

「えっ…は…はい…」



心臓が飛び出しそうなほど
バクバクと脈打った…
ウワサは本当だった…
僕の彼女、向井亜海が
ヘンな男と一緒に
同人AVを売っている…

会場を後にしても
あの時の光景が
ハッキリと思い出される…
そして僕は知りたくなかった
事実を思い知ることになる

確かあのサークル名…
『カメコ…おじさん…？』

沢山の女の子が
下品なコスプレをして
犯されている…ように見えるが
どうやらお金を
払わないとこの先は
分からないようになっていく…

500円/月

僕は…
もう確かめる必要もないのに
すぎるような思いで
動画に課金をした…
「亜海ちゃん…
そんなのありえないよね…」
動画を再生した瞬間に後悔した…
そこには…

▼ マゾ堕ち
▼ ハメ撮り
▼ オフショ

1,000円/月

会員になる

ビュルビュルプラン ♥
バックナンバーを見る▶



カラ

あられもない
姿で男たちに囲まれ
笑顔を振り撒く僕の彼女
亜海ちゃんが居た
こんな姿見たくなかったのに
僕はその動画を見
ることを
辞められなかった

ゆるゆる

えへへ

ブルブル

ブルブル

へこ

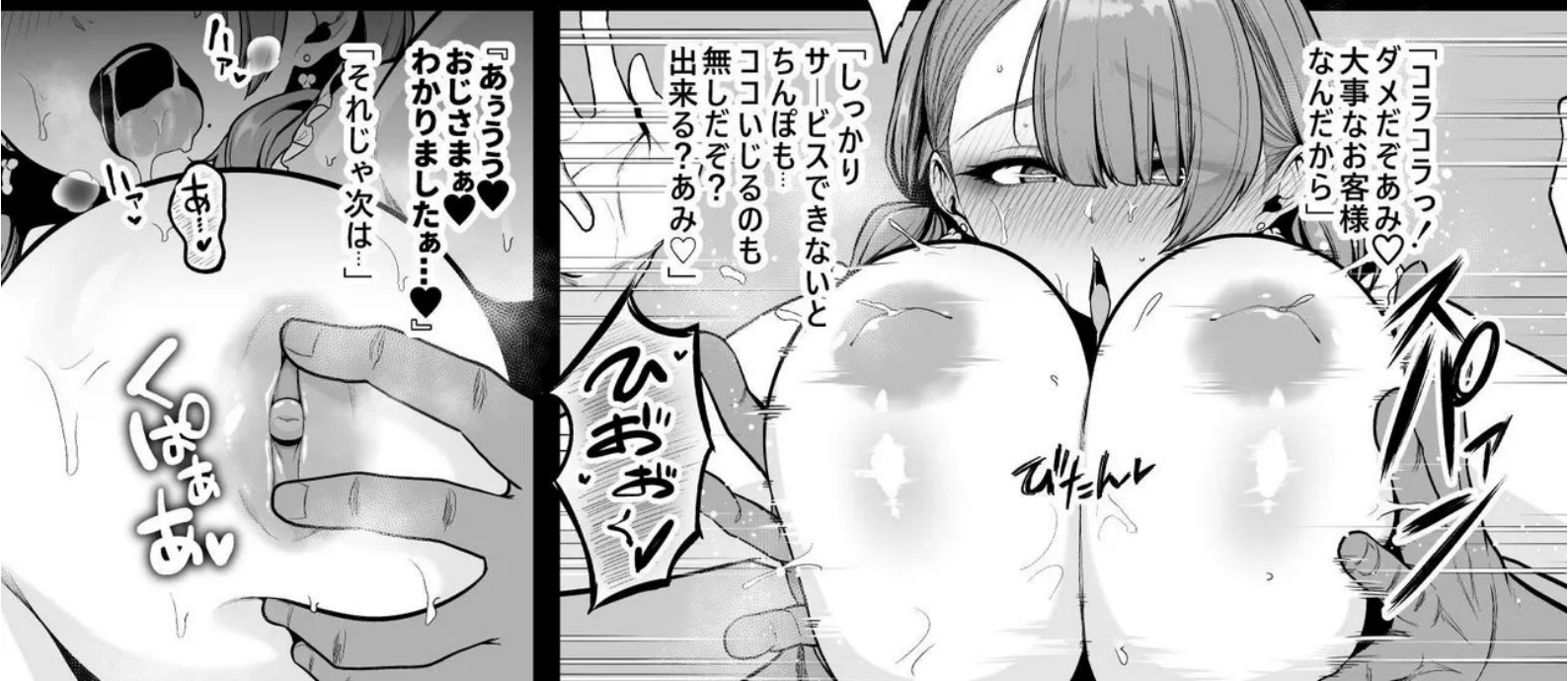
へこ

「ほらあみちゃん♥もっとおっぱいブルブルさせてみてがに股のままだね♥」

『ごっごうですかあ♥えへへ♡ちよと恥ずかしいですう♡』

「ハイ次っダブルピースで目線こっち下さ〜い♥」

『うっ♡もっ…もっ♡ですか?』



「カラカラッ! ダメだぞあみ♡大事なお客様…なんだから」

「しっかりサービスできないとちんぽも…ココいじるのも無しだぞ? 出来る? あみ♡」

ひびく

びびる

『あうっ♡おじさまあ♡わかりましたあ…♡』
「それじゃ次は…」

おっぱい

「皆さんのカメラをおじさんだと思って
いつも通りのパコハメ懇願ポズしてご覧♡」

「あうう♡お…おちんぽお♡
おじさまのおちんぽお♡あみの
生オナホにぶち込んでくりゃさいいい♡♡」

「ほらあみ♡くぱくぱは？
まんこで愛情表現も忘れずにね♡」

「おおおお♡♡あみちゃんの
生チン媚びポズ♡♡
これは絶好のシャッタチャンス!!笑」

「奥までよくみえるよ
あみちゃん♡」



「あれれw
あみちゃんおまんこ
お汁垂れてるよw」
「本気でおちんぽ欲しく
なっちゃったんだ？w」

「ほらあみ♡
どうなんだ？
ちゃんと答えなさい」

「はっはい♡すみません…
このポーズするとお♡おまんこが
おじさまちんぽ突っ込んで貰えると思
っちゃって…えへ♡」

「あはははw
だらしないマンコだねw」

「それじゃあそんな
堪え性のないあみの
オナホ穴…」



「おじさんが使うところ
皆さんに見てもらおうね♡」

「おおおお、生挿入まで
撮影できるとは♡」

「うわあ、待ちきれなくて
まんこうねうねしてる」

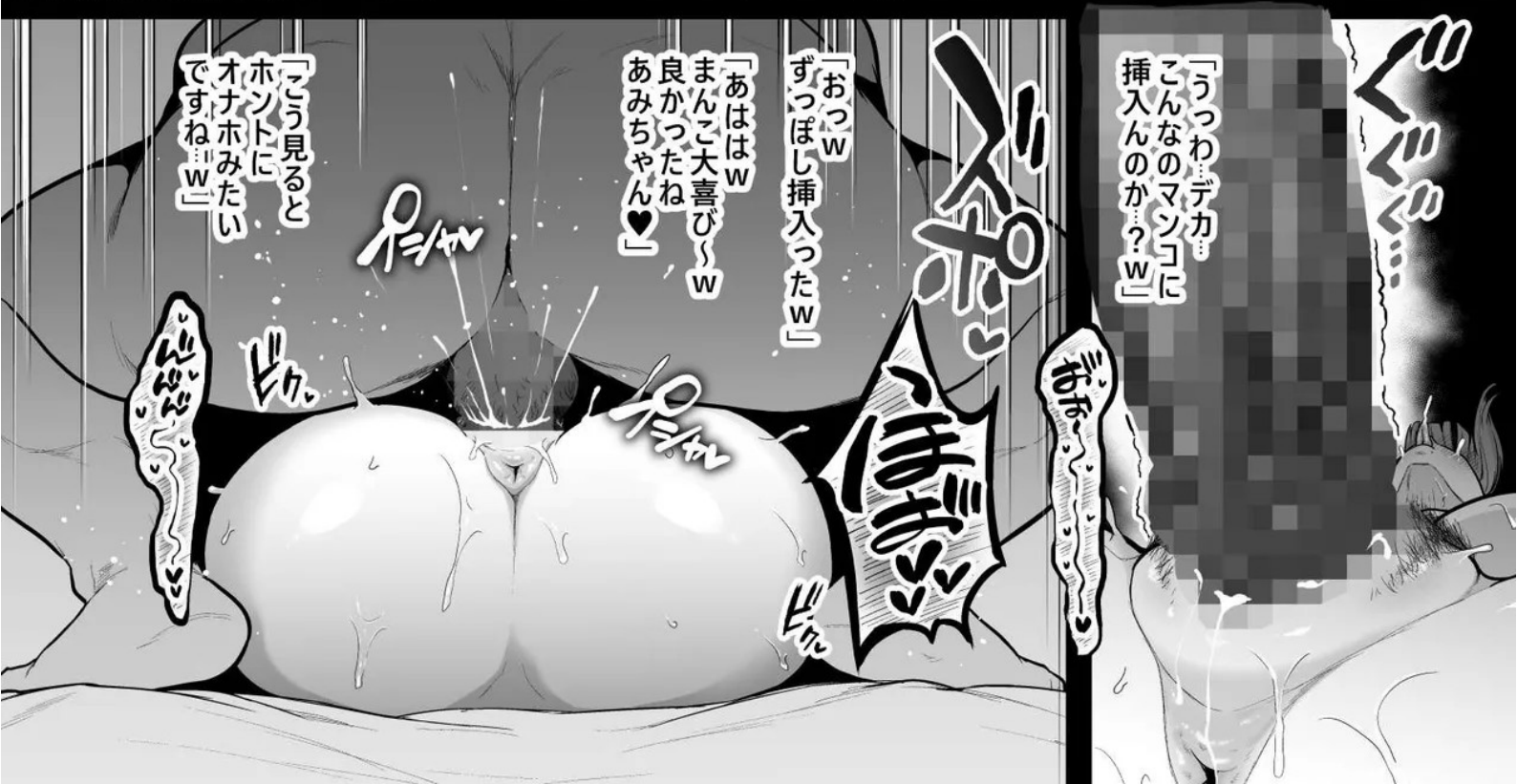
「ほらあみ♡
撮影して
貰ってるのも
忘れずにね♡」

「あつ♡ハイ♡
皆様あ♡これから
おじさまおちんぼ♡奉仕隊
4号のオナホまんこでえ♡
大好きなおじ様のおちんぼ
ゴシゴシして差し上げますのでえ♡
是非最後までご覧ください♡♡」



「ふふふ、体勢的に
ゴシゴシされるのは
あみちゃんのまんこ
だと思っケドwww」

「念願の挿入♡
良かったねあみちゃん♡」



「うっわ、デカ！
こんなのマスコに
挿入んのか？w」

「おつw
ずっぽし挿入ったw」

「あははw
まんこ大喜びw
良かったね
あみちゃん♡」

「こっから見ると
ホントに
オナホみたい
ですねw」

「あみ♡偉かったね♡
ご褒美に大好きなまんこと乳首
同時にほじくってあげるからね♡」
『んぎいい♡♡♡♡♡
これしゅきいい♡♡♡♡♡
ありがとう♡ぎいましゅ♡♡♡♡♡』

「今日はいいい子に出来て
偉かったね♡
よしよし♡♡♡」

「おおお♡
なんて表情w
気持ちよさそうだね
あみちゃん♡」

「んぎいい♡♡♡♡♡
これしゅきいい♡♡♡♡♡
ありがとう♡ぎいましゅ♡♡♡♡♡」

「ちゅちゅちゅあみ♡
陥没乳首が
吸いついて離れなく
なっちゃったよ?w」

「ちゅちゅちゅ
しちゃってw
甘えん坊の
乳首ですねえ♡」

「それじゃあ
あみ、そろそろ
出すから...」

「んぎいい♡♡♡♡♡
これしゅきいい♡♡♡♡♡
ありがとう♡ぎいましゅ♡♡♡♡♡」





宙吊りにされ
かわるがわる男たちに
使われていく彼女をー

「ほーらあみちゃん
笑って笑って♡」

「あはははw
表情硬いよ♡
目線こっち下さーい♡」

「どうですか？
あみちゃんマン」の
具合は？w」

「最高ですよお♡
いつもあみちゃん
シコってる分ココで
処理できるんですからねっ♡
奥まで締まって
すぐ出そうですよお♡」

「いやあー羨ましいですよ
カメコおじさんさん」

「はははw 恐縮ですw
むしろすみませんねえ
中古でw」

「いえいえw 僕らもこうして
若くて可愛い女の子に
ありつけるわけですからね♡
こりゃあ課金したよ♡
甲斐がありましたよ♡」



「ははは だったら」

「わーわーらしい♡♡♡
だいじゅきれす♡
おじさまがいちばん♡
ずつとそばに置いておいて
くりやさい♡♡♡」



「あみちゃんも
よかったね♡
おまんこ貸出しの
ご褒美にこんなの
プレゼントして貰えて♡」
「うーわw
中ではんっぱんに
膨れてますよ乳首♡」
「皆さんに気に入って
貰えてよかったね♡あみ♡」



『それじゃ
バイバイ…♡』

最後まで
見てしまった後悔と
何故か無性にその動画で
シコってしまった
自分への嫌悪感と快楽とで
頭がぐらぐらと揺れた…

その後—
あみちゃんは大学を辞め
音信も不通になった…



僕はもう…
あの謎のおじさんが
運営するサイトでしか
好きだったあの子の
近況を知ることが出来ない